

#### 議事要旨(4) IFRSのエンドースメントに関する作業部会における検討状況

冒頭、小賀坂副委員長より、IFRSのエンドースメントに関する作業部会における検討状況の概略について説明があった。続けて紙谷ディレクターより、修正国際基準に寄せられたコメント及び作業部会における検討状況について、[審議事項(4)-1]、[審議事項(4)-2]及び[審議事項(4)-3]に基づき詳細な説明がなされた。

説明に対する委員からの主な意見や質問と、それらに対する事務局からのコメントは次のとおりである。

- ある委員より、次の発言があった。
  - コメント対応においては、それぞれのコメントに対し濃淡をつけて対応するべきだと考える。特に、個別の基準に関連する質問 4 及び質問 5 に対するコメントへの対応は基準設定主体である ASBJ がもっとも機能を発揮することが期待されている領域であるため、重点的に対応をお願いしたい。
  - 修正国際基準について現時点では人によって捉え方が異なっていると思う。修正国際基準を採用する企業の数が増える指定国際会計基準を採用する企業と同様になることは難しいと考えていることもあり、意見発信力を強化し、間接的に任意適用の積上げにつなげる手段として考えるべきである。
  - 密度の濃い議論を行うということによって、意見発信力が強化されると考えている。公開草案での結論は十分に審議した結果であるからとしてそれ以上の議論を行わないこととすることなく、より密度の濃い議論を行っていくべきと考える。
  - 確定給付負債又は資産（純額）の再測定のリサイクリング処理について、公開草案に記載したリサイクリング処理を行う根拠が十分に説得力を持つかどうか再度検討すべきである。

これに対して、事務局より、のれんの非償却に関連する論点や確定給付負債又は資産（純額）の再測定のリサイクリング処理について公開草案の公表までに相当程度議論を行ったが、更なる検討が必要であるとの説明があった。

- ある委員より、次の発言があった。
  - エンドースメント手続の意義として国際的な意見発信が掲げられているが、公開草案で提案された「削除又は修正」項目以外にも国際的な意見発信をすべき項目があるという意見が聞かれている。コメント対応を通じて、「削除又は修正」する項目と「削除又は修正」は行わないものの意見発信していく項目について、明確な区分を示していくことが考えられる。
  - 企業会計審議会の「当面の方針」では、「エンドースメントされた IFRS を採用する意欲がある」企業の「ニーズを勘案した上で検討する必要がある。」とされている。

るため、採用を検討している企業にアウトリーチを行うことが考えられる。

これに対して、事務局より、意見発信を行うという観点と IFRS をエンドースメントする観点がある中で、抽出された項目をどこで区分して「削除又は修正」を行ったかについて、どのように説明するかもう一度検討しなければならないとの説明があった。

- ある委員より、次の発言があった。
  - 全体としてエンドースメント手続の意義について肯定的に評価されている点については良かったと思う。ただし、個別のコメントを見た場合、「当面の方針」や修正国際基準について、理解が不足していると思われる意見もあり、この点の理解を促すことが必要であると考え。
  - エンドースメント手続という取組み自体は理解されても、「削除又は修正」を行うことに懸念を示す意見もあるが、アジェンダ協議や ASAF を通じて意見発信を行ってきた項目については一貫性を守るべきと考える。
  - デュー・プロセスに対して透明性が不足しているとのコメントが寄せられているが、アウトリーチ等があった場合には要点を要約して説明してもらっていると理解しており、そのような手続が行われていることが伝わるようにしていくべきと考える。

これに対して、事務局より、以下の説明があった。

- 「削除又は修正」をのれんの非償却とノンリサイクリング項目に絞ったことについての説明を再度検討しなければならない。
- デュー・プロセスについては、誤解をなくすようにしっかり対応しなければならない。

- ある委員より、次の発言があった。
  - 作業部会での意見にもあったように、コメントの対応において、「当面の方針」に関するコメントとそれ以外に関するコメントに整理して進めるべきである。
  - 日本基準に関するコメントが、想定外に多かったと感じている。日本基準を採用する会社にとって、今後の日本基準については関心のあるところなので、日本基準のあり方について考えを整理して示していくべきではないかと考える。

これに対して、事務局より、公開草案へのコメントにおいても、作業部会の議論においても日本基準のあり方に対する意見が多く聞かれており、方向性を考える必要があるとの説明があった。

- ある委員より、次の発言があった。
  - 国際的に新たな基準が公表される中、ここ数年間は日本基準のコンバージェンスが行われていないことと、現在エンドースメント手続を行っていることにより、今後

の日本基準に対する関心が高まっていると思う。国際的な意見発信、エンドースメント手続、コンバージェンスを含めた日本基準の検討は有機的に連動して行っていないかなければならないと考えており、時間をかけて議論する必要があると考える。

これに対して、事務局より、エンドースメント手続とコンバージェンスは別次元の話であるものの、同じ項目を議論するため、国際的な意見発信を含めて関連させて考えていかなければならないとの説明があった。

以 上